たくみ
TAKUMI
No.047
令和４年１月●新春号
信州名匠会
（題字：故 池田三四郎 前名誉会長）

## 令和2年度研修旅行
# 上高地日帰りの旅

信州名匠会 令和２年度研修旅行は、新型コロナウイルスの影響を受け、10月17日（土）に23名が参加して、上高地へ日帰りで行われた。「上高地インフォメーションセンター・ビジターセンター」の設計監理を担当した有限会社みすゞ設計の松下重雄先生（当会会員）の案内で施設を見学し、昼食はホテル白樺荘にてコース料理をいただいた。午後は各々自由に上高地の豊かな自然を満喫し、国立公園内にてゆっくりとした時間を過ごした。

### 自然と調和した環境建築に感嘆

初めに「上高地インフォメーションセンター」を訪れた。この施設は国立公園内の案内所や休憩施設として利用されるほか、災害時には避難施設として利用される建物。二酸化炭素縮減のため国立公園内の建物は木造となっている。大断面の集成材を構造とし、劣化を防ぐために集成材の外側に100 mmの木曽ヒノキを張り付けている。

建物の暖房設備には深夜電力を利用した蓄熱床暖房のほか、パッシブソーラーシステム（OMソーラー）が使われている。大きな開口部を計画できたと共に、環境にやさしい熱源を用いることで上高地という自然豊かな環境下で、多くの動植物の営みや空気や水の美しさが保たれている。工事は閉山期に限られるため、設計施工に２年ずつ計４年の歳月をかけて完成した。

続いで訪れた「上高地ビジターセンター」は、上高地の自然を理解するための情報発信施設として設置された。こちらが、松下先生の国立公園内の初めての作品となった。

上高地インフォメーションセンターの説明をする松下氏。中央は降旗先生。

上高地インフォメーションセンター。
蓄熱床暖房を利用した暖かい吹き抜け空間

上高地ビジターセンター。
建物について説明する松下氏

国立公園内の厳しい設計条件の中、在来の丸太工法とし、内部の象徴木は木曽からヘリコプターで運び入れるなど、敷地の条件による厳しい工事となったことがうかがえた。内部には山岳写真家の作品が並んでいる。写真作品を邪魔しないよう人形浄瑠璃の黒子から着想し、展示室のヒノキは黒く塗られた。全体が非常に密度の高い建物となっており、上高地の自然豊かな地に調和した美しい建築に仕上がっている。当日はあいにくの雨であったが、非常に完成度の高い建物を見学し、充実した研修旅行となった。

２つの施設の見学を終えて優雅な昼食、午後の自由時間には上高地の自然を満喫。日帰りというスケジュールの中、充実した研修旅行となった。

## 研修旅行スナップ

上高地ビジターセンターにて

上高地ビジターセンターにて展示物を見学する参加者

### 研修旅行日程

**10月17日（土）**

山二ハウジング駐車場＝松本さわんどバスターミナル＝（シャトルバス）＝上高地バスターミナル＝上高地インフォメーションセンター・上高地ビジターセンター＝昼食（ホテル白樺荘）＝上高地（河童橋周辺）散策＝帰途へ

### 令和2年度研修旅行【上高地日帰りの旅】参加者名簿（23名。使命・所属。順不同、敬称略）

松下重雄・夫人・（有）みすゞ設計、井内猛男・井内孝輔・（株）井内工務店、降幡廣信・（株）降幡廣信建築設計事務所、宮澤郁夫・宮澤建築、黒澤忠・クロサワメタル（株）、山崎慎一郎・（株）山崎屋木工製作所、祢津吉通・（株）ミツルヤ製作所、坂田守夫・坂田工業（株）、佐藤清美・（同左）JIA事務局、犬飼栄治・（株）シナノ大理石、金田勝良・（有）金田工業、堀誠・夫人・建築工房アカシア、久保敏幸・（株）さつき苑、内山保・夫人・（有）朝陽工芸、福島一明・（株）北信帆布、宮本夏樹・西澤広智・（株）宮本忠長建築設計事務所、出澤雄太・太田奨吾・信州名匠会事務局

## 訃報

山中桐箱店
山中袈裟嗣さん

信州名匠会会員で山中桐箱店の山中袈裟嗣氏が8月29日ご逝去されました。享年78。昭和18年に生まれ、16歳から父・五良さんのもとで桐箱づくりを学び、「印籠」「かぶせ」など各種の桐箱をはじめ、掛け軸を巻き付ける「太巻き」や、茶道具、額縁なども手掛け、氏の桐箱は新嘗際の献上箱にも使用されました。

平成20年には、（財）税理士共栄文化財団の地域文化助成金の対象となり、伝統技術の保存のため、制作過程を記録したDVDの作成にもご協力いただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

（株）清蘭堂会長
小林清英さん

信州名匠会元会員（会員 小林誠治氏の義父）で（株）清蘭堂の会長 小林清英氏が11月28日にご逝去されました。享年88。（株）清蘭堂は、創業100年の老舗表具店。

氏は生涯、書画を紙や布で、軸や屏風に仕立てたり、書画そのものを修復して後世に残す技術である表具の仕事を極めてこられました。平成10年、黄綬褒章、平成18年に旭日双光章を受賞されました。一方、大自然の風景、ネパールや南米の人々を映した写真の展覧会を開くなど、幅広く活躍されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 令和3 年度・第29 回総会 書面決議形式で実施

# 新型コロナウイルス感染対策を考えながらの活動を模索

信州名匠会（土本俊和会長）は6 月30 日、令和3 年度（第29 回）通常総会を、書面評決形式で実施した。書面評決で56 名の投票がされ、令和2 年度事業・会計報告、令和3 年度事業計画・予算が承認された。同日現在、本会の構成員は個人会員44 名、賛助会員28 名、総計72 名である。

書面決議案の冒頭、土本会長（信州大学教授）挨拶で、「新型コロナウイルス感染拡大を警戒しなければならない状況が続く中、信州名匠会研修会等の事業の内容・やり方を工夫しながら進め、匠の技の継承と発展の為、会員みんなの知恵を絞って会の活動を行っていきたい」と述べられた。

土本俊和会長
（平成 30 年度・第 26 回総会にて）

## 信州名匠会　年間スケジュール

A 会員集会・委員会　B 学習・見学・実習C 交流　カッコ内は担当委員会

**令和3年**

6月 30日(水) 第 29回通常総会(総務)
7月 15日(木) 第1回研修会A・C（総務・事業技術）
9月　1日(水) 親睦スポーツ大会C(会員)
9月 25日(土) 第2回研修会B(事業技術)
10月 23日(土) 第3回研修会A・C(総務・会員)
11月 13日(土)・14日(日)　研修旅行B・C
（事業技術。協力: 総務・会員）
12月　9日(水) 第4回研修会B(事業技術)

**令和4年**

1月 19日(水)　新年会C(会員)
2月 16日(水)　第5回研修会A・B(総務・事業技術)
3月 16日(水)　第6回研修会B(事業技術)
4月 16日(土)　第7回研修会「お花見」C(会員)
5月 21日(土)　第8回研修会A・C(総務・会員)
6月 22日(水)　令和 4年度 第 30回通常総会(総務)

研修会　場所：基本場　（株）宮本忠長建築設計事務所　第２会場（株）降幅建築設計事務所
時間：18：30　～　20：30
※委員会の企画内容により異なる場合があります
※研修内容・場所・日時については決定次第順次お知らせいたします。

# 三十二ツ星1 名をはじめ15 名の新規認定者が誕生

## ～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月 1 回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成 11 年に創設された。研修会へ 1 回出席するごとに 1 単位を加算し、10 単位で星 1 つを与える。今年度は新規認定者 15 名（認定者総数 64 名）が誕生した。貴重な研さんの場である定例研修会への、会員諸氏の精力的な参加に、ますます期待が高まっている。（令和 3 年 6 月現在、敬称略。紙幅の関係で新規認定者のみ掲載いたします）

☆☆☆三十二星1 名☆☆☆
坂田　守夫／坂田工業（株）

☆☆☆三十ツ星1 名☆☆☆
西澤　嘉雄／（有）エヌ設計

☆☆☆二十二ツ星1 名☆☆☆
西澤　広智／（株）宮本忠長建築設計事務所

☆☆☆十八ツ星2 名☆☆☆
犬飼　栄治／（株）シナノ大理石
白石　大陸／サンコー特機（株）

☆☆☆十五ツ星1 名☆☆☆
増田　幸雄／匠建設（株）

☆☆☆十一二ツ星1 名☆☆☆
海野　政也／（有）海野鉄筋工業所

☆☆☆七ツ星1 名☆☆☆
荒井　孝明／（株）本久

☆☆☆六ツ星1 名☆☆☆
宮本　夏樹／（株）宮本忠長建築設計事務所

☆☆☆五ツ星1 名☆☆☆
山崎　慎一郎／（株）山崎屋木工製作所

☆☆☆三ツ星1 名☆☆☆
金田　勝良／（有）金田工業所

☆☆☆二ツ星2 名☆☆☆
齊藤　昌彦／（株）角藤 長野本部
松下　重雄／（有）みすゞ設計

☆☆☆一ツ星1 名☆☆☆
齋藤　潔／齋藤木材工業（株）

## 令和 2 年度　事業報告（人数は参加者）

**令和2年**

6月25日(木)　第28回通常総会【書面決議】投票者数58名
7月18日(土)　第1回研修会　塩田平見学「レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」」相原 文哉 氏　24名
8月 26日(水)　親睦ゴルフ大会　長野カントリークラブ　13名
9月26日(土)　第2回研修会　ブランド薬師「八櫛神社と十三仏」見学会　土本俊和会長・柳井斉彬氏・相原文哉氏　33名
10月17日(土)　令和2年度信州名匠会研修旅行　上高地「インフォーメーションセンター・ビジターセンター」見学　松下重雄 氏（(有)みすゞ設計）　23名
11月14日(土)　第3回研修会「小林古径美術館」見学　松橋寿明氏（(株)宮本忠長建築設計事務所）　23名

**令和3年**

1月13日(水)　「たくみ」№46新春号発行
3月24日(木)　第4回研修会リレートーク24回「建築デザインに求められるもの」　小宮山吉登氏（(株)倉橋建築計画事務所）　23名
4月24日(土)　第5回研修会　戸隠見学「戸隠信仰と共に築いたまち並み・建築を訪ねて」　塚原秀之主査・高倉光主事（長野市教育委員会文化財課）　16名
5月22日(土)　第6回研修会「松田家」見学会　西澤嘉雄氏（(株)N建築設計事務所）　23名

## 令和2年度　会計報告書　自：令和２年６月１日／至：令和３年５月31日

## 令和３年度　事業予算書　自：令和３年６月1日／至：令和４年５月31日

## 会員の動向（令和2年6月～令和3元年5月末日。敬称略）

■新会員　賛助会員■

福島　一明／（株）北信帆布／テント／長野市風間下河原2034-19　電話：0126-221-3500

■担当者の変更　賛助会員■

（株）LIXIL　前任）前川　直樹　新任）田中　各

## 懇親ゴルフコンペ　西宮登喜男氏が優勝

スポーツを通じ会員同士の親睦をはかる恒例の懇親ゴルフコンペが、長野カントリークラブで行われた。あいにくの雨模様ではあったが、暑すぎず、多少雨と霧に苦しめられながらも、仕事を忘れ和気あいあいゴルフを楽しんだ。今回は、12 名が参加。しばらくぶりにご参加いただいた、西宮登喜男氏が見事優勝された。プレー後のパーティーでは、坂田専務理事から各賞が渡され、ベテラン・若手がプレーを振り返りながら親睦を深めるひとときとなった。

参加者は次の通り（順不同、敬称略）

坂田守夫／坂田工業(株)、落合一視／落合コンサルタント、齋藤昌彦／(株) 角藤、五明良平／(株) 五明、荒井孝明・(株) 本久、高橋志行／(株) むね工房、増田幸雄／匠建設 (株)、小坂浩一／小坂建設 (株)、米田満／(株)山二、西澤広智／(株) 宮本忠長建築設計事務所、西宮登喜男／(株) 綿内瓦工業、内山保／朝陽工芸 (有)

# 定例研修会●Report

（令和2年11月～令和3年7月）

## 令和２年度　第３回研修会
## 【小林古径記念美術館見学会】

令和2年11月14日（土）
講師：（株）宮本忠長建築設計事務所 設計長 松橋 寿明氏
参加者：23名

本年度3回目の研修会は、小林古径美術館の見学会を行った。初めに画室にて（株）宮本忠長建築設計事務所　設計長の松橋寿明氏より計画の概要を伺った。

本計画は、東京都大森にあった小林古径邸（設計：吉田五十八）の移築（2001年）から始まった。東京の建物を多雪地域に移すという難題を乗り越えて、古径の故郷である新潟県上越市へと移築された。移築当時、復原事業の一環として雪国の町並みに見られる「雁木」をモチーフとした管理施設を付帯して計画。今回の美術館整備にあたっては「長廊」を延長して計画し、美術館を利用するだけでなく公園利用者も気軽に通り抜けることができる場として、人々のつながりや、地域の文化・歴史を身近に意識できることを目指したと伺った。

映像を用いて建物について説明する松橋氏（左端）

新しく完成した美術館

計画の説明の後、松橋氏の案内で元画室、小林古径邸、美術館、庭園を見学し、長い年月を通して設計されてきた空間を学んだ。

最後に、博物館屋上より美術館を見下ろすことで、公園全体と美術館の関係性を感じることができ、非常に充実した見学会となった。

## 令和２年度　第４回研修会
## 信州名匠会　リレートーク VOL.24
## 【デザインに求められるもの】

令和3年3月24日（水）
講師：（株）倉橋建築計画事務所 代表取締役 所長 小宮山 吉登氏
参加者：23名

令和２年度第４回研修会は、リレートークに倉橋建築計画事務所（松本市）の代表取締役 所長の小宮山吉登氏を招き、「建築デザインに求められるもの」をテーマに語っていただいた。

小宮山氏は、宿泊施設等のデザインやリニューアルの設計について、リニューアルの場合は「歴史背景に新しい価値を加えて蘇らせることを考えている」と言う。それを「再生ではなく蘇生」と表現し、「建物と利用する人が一体になることができる空間にしなければならない」と強調された。

建築デザインに求められるものは「事業デザインとライフデザイン」だと小宮山氏。事業はエコ・省エネ、多様な宿泊形態など。ライフは「映える」、ウィズコロナなどを挙げ、「物語」「心理・振る舞い」「気配りのしやすさ」の3つをデザインすることが重要だと言う。

さらに「事業者と設計者、施工者が手をつなぐことが大切」だとして、「（設計者や施工者は）事業者とは違った視点で感じ、物事を見ることが必要」とも説明された。

倉橋建築計画事務所は、旅館・ホテル、医療・介護施設などの設計を中心に、公共民間を問わず多くの建築物を手掛けている。小宮山氏は「弊社のマークは砂時計をモチーフにした形。砂時計は、返せば何回も時を刻む」とし、「建築も、設計者・施工者が適切に手を加えればリニューアルし、末永く時を刻んでいく」との基本方針も紹介された。

自身の設計への取り組みを説明する小宮山氏

小宮山氏より説明を聞く参加者

研修会は、新型コロナウイルスの影響で長らく中断していたため、ほぼ半年ぶりの開催となり、約20人が参加した。

## 令和２年度　第３回研修会
## 【戸隠神社中社界隈　見学会】

令和3年4月24日（土）
講師：長野市教育委員会文化財課　主査 塚原 秀之氏
参加者：17名

### 戸隠信仰と共に築いた　まち並み・建築を訪ねて

長野市戸隠伝統建造物群保存地区の状況を視察するため、戸隠を訪れた。初めに徳善院蕎麦 極意にて昼食をいただき、建物の見学を行った。その後、講師である長野市教育委員会文化財課主査の塚原秀之氏より、戸隠の伝統建築物保存への取り組みについて伺った。戸隠には茅葺の屋根が特徴の伝統建築物があり、社家や在家など生活する人の役職に応じた屋敷の構えに特徴が見られる。こうした伝統的建造物に加え、環境物件などが複合的に絡みあうことで戸隠全体の景観を作り出していることが分かった。また戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会を設置し、住民と行政が戸隠の未来について目標を共有し、協働を図りながらまちづくりを進めているとの話も伺った。

徳善院にて塚原氏より説明を聞く参加者

その後、塚原氏の案内

で、実際に戸隠のまちを散策しながら茅葺屋根などのまち並みを見学し、保存の難しさなどの話を伺った。茅葺屋根から金属板葺などに変化していく建物が増えていく中、長野市では修繕に補助金などを設けることでまち並みの維持をしている。価値のある景観を維持していく中での市の取り組みや住民の意識を知る研修会となった。

茅葺屋根が残る徳善院にて

## 令和2年度　第6回研修会
# 【千曲市「松田家」主屋の再建現場見学会】

令和3年5月22日（土）
講師：（株）N建築設計事務所　西澤　嘉雄氏
参加者：23名

令和２年度第６回研修会は、千曲市八幡の「松田家」主屋再建工事を見学した。

この建物は平成29（2017）年９月に失火のため焼失した建物で、武水別神社の神主の屋敷。同時に消失した斎館（さいかん）は火災の翌年、平成30年に再建されている。

今回、再建される主屋は平成16年に県宝に指定され、斎館はその10年後、平成26年に県宝の指定を受けていた。２棟とも消失により県宝の指定が外れた。斎館は国の選択無形民俗文化財「大頭祭」などの行事に使用され、市の指定文化財であり、歴史的風致形成建造物にも指定されていることなどから、市が工事費の一部を負担して先に再建された。松田家から市に寄贈され、市の管理となっていた主屋の再建がようやく今回、市によって進められた。

主屋の再建工事は一昨年12月に着工し、昨年12月の完成予定で工事が進められた。研修会は5月31日に開催された上棟式を控え、建て方がほぼ終わった5月22日に行われた。設計を担当した西澤嘉雄氏が、文化財の建物を復元する際の苦労などを解説された。

西澤氏によると、作業は現在の建築基準法に従いながら復元を進めるもので、「忠実な復元にはならない。何を選択するか、常にジレンマとの戦いだった」と言う。公共施設であるため、ふんだんに予算を投じることができないという課題も指摘された。

構造材として、桁にはあえて曲がりのある長尺材を使い、一方、柱などはプレカットの角材を使用している。「伝統的な構法と現在の構法とを組み合わせることで、メリットのある方を採用した」と語った。

主屋は元々茅葺だったものを、再び火災を起こさないために、再建後は鋼板葺きにするとのこと。

松田家にて

また、小屋裏は部屋を確保できるほどの広さと高さがあり、火災時に、この空間が煙道の役割をして棟続きの斎館も燃えたという。今回の再建では、その反省を生かして「主屋は斎館とは別棟であるものの、桁行12mごとに準耐火の隔壁を設けた。二度と火災による不幸を起こさないため」と話された。

主屋は再建後、武水別神社や松田館に保存されている資料などを展示する博物館施設として活用される。

## 令和３年度　第１回研修会
# 【地域材伐採現場 見学会】

令和3年7月31日（土）
講師：長野森林組合森づくり推進課課長　春日 賢一氏
営業企画課　坂戸 雄世氏（信州名匠会会員）
参加者：19名

今年度1回目の研修会は、飯綱町の国有林にて地域材伐採場の見学会を行った。昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、現在外国産の木材が著しく不足する事態に陥っており「ウッドショック」といわれる状態となっている。そのため木材価格が高騰し、建設業界全体に大きな打撃となっている。

地域材の現状を知るべく、長野森林組合に講師を依頼し、国有林を訪れた。

現地では伐倒の様子を見せていただき、職員によるチェーンソーとハーベスターを利用した伐倒の様子を見学した。残存木を損傷しないようにするため樹木を列ごとに伐倒していく列状間伐を行っていると伺った。

地域材伐採の様子を見学する参加者

主な工程としてはチェーンソーを用いての伐倒を行い、ハーベスターを用いて伐倒・造材、最終的にフォワーダを用いた集搬を行っているとのことである。

伐倒から集搬までの流れについて説明する春日氏

現状、国産材は流通のシステムが十分に整っているとは言えず、活用についての課題は多い。普段は立ち入ることができない、国有林の材木伐採現場を見学するという大変貴重な体験ができ、有意義な研修会となった。


発行日：令和４年１月26日
発行者：信州名匠会　会長　土本　俊和
編集者：信州名匠会事務局
制作協力：文屋、（株）新建新聞社
連絡先：（株）宮本忠長建築設計事務所
事務局：西澤広智、出澤雄太、栗原直良、吉田雅彦、木下豊
〒381-0012　長野市柳原 1875-1
TEL：026-241-5510　FAX：026-243-0187